

パネルディスカッション1

「食道胃接合部癌診療の最前線」

司会 瀬戸 泰之（東京大学消化管外科）

小池 智幸（東北大学病院消化器内科）

近年増加が指摘されている食道胃接合部癌は、定義ですら未だ議論がある。その病態に関しても胃食道逆流症もしくは *H. pylori* 感染に伴うものが混在することが推察され、サーベイランス法や予防法に関して議論がある。また、内視鏡治療が広く行われているものの長期的成績は十分明らかになっておらず、外科手術に関しても最適な術式が議論されているのが現状である。本セッションでは、食道胃接合部癌の病態、疫学、診断、治療に関する新たな知見を発表頂き、最新の食道胃接合部癌診療について整理したい。